

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に職員全員で話し合い理念を決め玄関に掲示しています。	事業所独自の理念を検討し、事業所玄関に掲示しています。理念を実践できるよう、毎月のユニット会議でユニット目標に対する振り返りを行っているほか、個人目標も個人面談にて確認しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域の方からの教室はお休みしていますが、犬のおやつ作りを行い地域のペットショップで販売していただいています。また2か月に1回運営推進会議にて地域の方々と情報交換を行っています。	地域の一員として繋がりを持てるよう犬のおやつ作りに取り組んでおり、地域の方から商品にならない野菜や果物を格安で譲って頂き、ご利用者と一緒に加工し袋詰めした物を、西区のペットショップ数件で販売して頂いています。また、今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、例年であれば地域の方にも参加して頂き、事業所にて裁縫の教室を開催したり、地域の盆踊りにもご利用者と一緒に参加するなどの活動を通じ、地域との交流を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際皆様の様子を伝えたり、犬のおやつ作りの活動やゆうばえのホームページでも紹介しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ禍の為書面での報告をさせて頂いていますが、電話やFAXにてご意見をいただいています。頂いた意見を各フロアで話し合い活かしています。	今年度は新型コロナウイルスの影響で書面開催となっておりますが、運営推進会議は包括支援センター職員、保健福祉センター職員、自治会長、民生委員、他事業所管理者、ご家族などにご利用者のサービスの支援状況や取り組み、事故報告、問題点と解決方法などを報告し、そこでの意見を参考にしサービスの質の向上に努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事や問題が起きた時、連絡を取りご助言を頂いております。また、運営推進会議のメンバーにも地域包括の方や地区の保健福祉の方々がいらっしゃるので、随時コミュニケーションを取っています。	包括支援センター職員及び保健福祉センター職員には運営推進会議の内容を報告しているほか、市とは問題が発生したとき、困ったことがあったときなど、ご利用者の状況により連絡を取るなどし、適切な事業運営に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の思いを尊重し、行動を制限しないよう職員一人一人心掛けております。また、定期的に研修の機会を設けて、職員間の理解度の向上に努めております。	身体拘束を行わない方針のもと、玄関の施錠も夜間のみとするほか、身体拘束について事業所にて研修会や検討会の機会も設けるなどし、職員の理解を深めています。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新潟市の研修や外部のリモート研修などに参加しています。また内部でも研修を行っています。また、日々の業務や会議の際に不適切なケアにならないよう話し合いを行っています。	管理者や職員は高齢者虐待について話し合い高齢者の虐待防止に努めているほか、高齢者虐待について事業所でも研修を実施し、言葉遣いにも気を配るなど、職員に徹底しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を行いました。また成年後見制度についても研修に参加しています。現在、成年後見制度を利用されている方もおります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけしっかり説明し、納得いただいたうえで契約を結んでおります。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回、満足度調査を行い集計結果は公表しております。家族の方へは、毎月写真付きの1か月のご様子を書いたお手紙を出したり、電話や施設にいられた際にお話し、ご要望を伺っています。	事業所の玄関には意見箱も設置しており、面会時や電話でのやりとりの際は意見を確認する機会を設けています。また、年に一度の満足度調査にてご家族の率直な意見を確認する機会を設け、サービスに反映できるようにしています。	調査時点でカンファレンスの議事録にカンファレンスの終了時間の記載がありませんでしたので、今後改善されることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニットごとに会議を実施し、運営について職員の意見や提案を聞く機会を設けています。ユニット会議で法人全体に関わる内容があれば、法人の職責会議または理事会等で取り上げています。	月に1度のユニット会議や日々の業務を通じ、職員の意見や提案を聞き、日々のケアや運営に活かしています。また、事務局長・管理者との3者面談の機会も設け、職員の要望を確認できるようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者による管理者面談は年2回実施し、職員の処遇改善、やりがい等をヒアリングしている。特にワークライフバランスの充実に目標に職場の労働環境・労働条件等の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者と管理者は育ちあい成長し合うための職員育成面談をすすめている。職員には年度の目標を持たせ、それがどのように実践されたかを聞きながら次年度の目標を更新させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者による管理者面談は年2回実施し、職員の処遇改善、やりがい等をヒアリングしている。特にワークライフバランスの充実に目標に職場の労働環境・労働条件等の整備に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の際、ご本人と会話をし、困り事、不安、要望等確認しています。また、見学にいられた時は現在は玄関先になってしまいますがお話をし、安心感が得られるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談や見学の際、ご家族にお困りごとや不安な事等お聞きしています。また入居されてからも3ヶ月から4ヶ月に1回面談を行っていますが、その他にも連絡を取り合いご家族の要望やご本人についての相談を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、ご本人ご家族の状態や状況を考え最も必要とする支援方法を提案しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本的にご本人の出来ることはご本人にして頂きできない所をさりげなくサポートするようにしています。家事など共に暮らす者同士で行う事で信頼関係を築けるよう努めております。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1ヶ月の様子を手紙にし伝えていきます。また変化のあった時等電話で相談を行う事で、共に支える関係を築けるように努めています。	ご家族へは、居室担当者より毎月写真付きの1ヵ月のご様子を書いたお手紙をお送りし情報を提供しています。また、ご家族には外出支援や受診支援も行っていただくなど、協力して頂いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力して頂き、できるだけ受診や美容院等続けられるものは続けていただいておりますが、コロナ禍の為、行けないことも増えています。ご近所の方とはお電話でお話しされています。	ご利用者との日頃のやりとりで要望を確認し、これまでの関係が継続できるようにモートでの面会の機会を設けたり、ご家族の協力を得て行きつけの美容室を利用するご利用者もおられます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の性格・関係性を把握し、職員間でも話し合いを行っています。座席の工夫や孤立しないよう職員が間に入りながら一緒に作業をしたりし繋がりが広がるよう努めております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、相談や支援できる所はできる限り対応させて頂いております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式や担当者会議だけでなく、日々の生活の中でご本人の思いや意向を把握するようにしています。また、ご本人にもどのように生活したいか確認に努めています。	ご利用者一人一人の思いや暮らし方の希望や意向に沿って日々のケアにあたっています。毎月のユニット会議でもご利用者個別のカンファレンスの機会を設け、職員間でもご利用者の思いを共有するようにしています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面談や関係機関からの情報をもとにアセスメントシートを作成し、職員間で把握するよう努めています。またご本人との日々のコミュニケーションの中で得た情報も職員間で共有するようにしています。	契約時にご利用者一人一人の情報をまとめたアセスメントシートを作成しているほか、センター方式にも取り組み、ご利用者の生活歴やなじみの暮らし方を把握しています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援の中で入居者の観察をすると共に、記録に残し申し送りを行い職員間で把握できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々、業務の中で気付いたこと等職員間で話し合っています。また毎月会議の際モニタリングを行い3ヶ月～4ヶ月毎にご家族・本人と話し合い介護計画書に反映しています。	介護計画の状況は目標毎に実施状況をチェックしています。また、定期的実施しているサービス担当者会議には、ご利用者、ご家族の意向を確認し、介護計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき等記録に残し、申し送りを行い情報共有しています。計画書の実践については、個別にチェックシートを用いて毎日実践し状態を見ながら見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日課はご本人のその日の気分や意向に沿えるよう、特に決めていません。ご家族の状況にも合わせ柔軟に対応できるよう努めています。その他、入居者様の希望もあり小さな売店を始めたりもしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩の際、地域の方と会話したり、コロナ禍になる前は近所のスーパーやお店、図書館へ行ったり地域のお祭りなどにも参加していましたが、現在は皆様の希望を伺い代行し活用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・家族の希望を大切にしています。受診に行かれる方には、事前に様子をお伝えしたり相談したりしています。必要時には、お医者様にも電話や手紙にて相談させていただいています。	ホームに往診に来ていただいているほか、ご家族の支援のもと受診されるご利用者もおられます。かかりつけ医にご利用者の情報をまとめた情報提供書を送ったり、電話連絡をするなどし、信頼関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週4回、出勤した際情報の伝達や相談をし、指示をもらっています。また、法人内の訪問看護とも情報を共有し、NS不在時や夜間帯何かあったとき指示をもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、ご本人の情報を病院へ伝えていきます。また、現在面会ができないのでご家族・病院と連絡を取り合い、回復状況の把握や今後の事を話し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の面談や契約時に説明を行っています。カンファレンスや必要時にも話し合いを行い施設の方針を理解して頂いています。嘱託医やかかりつけ医にも当ホームとしての方針を伝え支援しております。	契約時にはホームの方針をご家族に必ず説明し、ご家族の意向も確認しています。ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームですることができる支援をしています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や事故発生時に備え話し合いを都日々行っています。また、緊急時に備えマニュアルも作成しています。	開設時に救命講習を全職員が受講しているほか、事業所にて研修の機会を設けたり、急変時に対応したマニュアルも整備し、適切な初期対応が出来るように徹底しています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っています。また、運営推進会議の際、報告し地域の方の協力体制ができるよう努めています。	水害や夜間の火災を想定した避難訓練を定期的実施しており、非常食も備蓄し、定期的に確認も行われています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーや誇りを傷つけないよう言葉づかいや関わり方に気を付けています。接遇研修も兼ね日々の話しかけについて毎月目標をもって行っているが、それ以外にも日々の業務の中でも注意を促しています。	事業所でも接遇に関する研修を行い、ご利用者一人一人の誇りやプライバシーに配慮して日々のケアを行っています。契約時に個人情報使用の同意もご家族に行っており、記録等についてもプライバシーに配慮した記録がされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室環境や入浴時間・趣味の時間や過ごし方など、日常生活の様々な場面でご本人と相談したり、ご希望を伺いながら自己決定できるよう対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の思いに添って、自由に生活して頂けるように心掛けています。コロナ禍でなかなか買い物等行けませんが、可能な限り実現できるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服などは、ご本人のお好みの物を持参して頂いています。また、ご希望が聞かれた時は化粧品や服など購入しています。カット、カラー等お店に行かれたり、訪問美容で支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いや食べたい物を聞き、メニューに反映しています。食事の準備・片付けも個人の能力に合わせて一緒にしています。	ご利用者の好き嫌いは事前に把握し、献立はご利用者の希望を取り入れながら決めています。また、ご利用者の状態に合わせて準備や片付けに参加してもらっています。ご利用者が食事を楽しんでもらえるよう、リクエストメニューの機会を設けたり、事業所の畑で栽培した野菜と一緒に収穫したりもしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を毎食記録しています。水分・食事量が少なかった方には、代替えを試してみたり、飲み込みの悪い方には、刻みにしたりとろみをつけたりして対応しています。食事量の少ない方には補食も用意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に行っていただいています。個々の状態に合わせて、声掛けや見守り、義歯の管理などを行っています。また、毎食前に口腔体操を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の意思に沿い、様子観察を行っています。職員間で個々の対応方法を話し合い、必要時声掛けやパット確認・交換を行っています。また、ご自分でパット交換をされる方が後始末をしやすいよう環境面にも気を付けています。	ご利用者全員の排泄チェックを行ない、ご利用者の排泄パターンや排泄サインを把握し、ご利用者の意思に添った支援しています。	ユニット間で記録様式や記入方法の違いがありましたので、今後統一するように検討されることを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日水分量の把握を行い少ない方へ飲んで頂くよう支援しています。また、乳製品の摂取や散歩に出たり、一日数回体操をするようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には2日に1回のペースで考えておりますが、希望があれば毎日でも入れるよう対応しています。時間帯や、入浴日等ご本人と相談しながら決めています。	季節に合わせて菖蒲湯を楽しんで頂いたり、同性介助での支援の要望に対応したり、入浴を嫌がる方へもタイミングに合わせて声掛けを行い、入浴できるように支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には自由に過ごして頂いています。余暇の時間の中で休むことも、就寝も皆様のお思いのペースで休まれています。眠れない時は、お話を聞くなど安心して休むことができるよう心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにお薬情報を綴じています。また、全員分の情報が綴じてあるファイルもあり、変更等あった時は申し送りを行っています。分からない事などは、NSに相談し把握に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事前にご本人・家族・関係者から生活歴やできる事・張り合い・好み等お聴きした情報を把握し役割や楽しみが送れるように支援しています。また、日々の会話の中でも気付けるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご希望があった時や様子を見ながら散歩に出たり、庭や畑仕事を日常的にしています。外食や買い物等はコロナ禍を施設内でできるように工夫して行っています。また、面会も出来なくなってしまったのでご家族に協力して頂きリモートや電話で面会を行っています。	今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、できる範囲で天候や状況を見ながら、散歩や畑仕事を行っています。また、ご利用者と一緒に買い物に行けないので、事業所内で買い物ができる売店を設け、ご利用者の要望に合わせて商品も揃えています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方はご自分で管理されています。その他の方は、ご本人・家族と相談しこちらで預らせて頂いています。施設内にある売店や自動販売機等なるべく支払いの出来る方にはご自分でして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持っている方は自由に電話を掛けていますが、掛け方が分からない様子が見られた時は、支援しています。お持ちでない方は、希望時施設の電話を使用されています。手紙の投函や切手の購入等一緒にお手伝いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者に聞きながら、装飾や物の配置を行っています。また、ご利用者と一緒に行い、好みや季節感を取り入れ一緒に空間作りをするよう心掛けています。居心地よく過ごして頂けるよう、温度・音・光等ご利用者に声掛けしながら調整しています。	事業所の共用空間は清潔感が感じられ、ユニット入り口やリビングにご利用者の作品も展示されています。観葉植物も置かれるなど、共用空間の飾りつけは季節に合わせてあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外にも廊下に椅子を置いたり、デスクにベンチを設置したりしています。玄関前の地域交流スペースも自由に利用できるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はベッド以外、何も無い状態です。今まで使い慣れたもの、なじみの物を持参して頂きご本人が居心地よく過ごせるようにしています。	居室の家具等の調度品の持込は室内に入る限り制限はせず、ご利用者の思い出の品や使い慣れた物を使用していただいています。居室内の家具の配置や使い方は、ご家族やご利用者が自由に使いやすいようにレイアウトしてもらっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の名前を表示したり、行動しやすいように、物の配置に気を付けています。お困りの様子が見られた時は、声掛け行っています。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				